

山城地域と天井川

末廣 一翔

(2021 年入学 鈴木ゼミ 5 期生)

天井川とは

天井川とは、川底が周囲の土地よりも高い場所に位置する河川のことである。人々は古くから、河川の氾濫による洪水などに悩まされてきた。そこで人々は河川の氾濫を防ぐために兩岸に土や石を積むことで、堤防の整備を行うようになった。しかし、堤防によって流れを固定された河川は、時間の経過とともに堆積した土砂で川底が上昇してしまう。川底が上昇すると氾濫の危険性が高まるため、堤防をさらに高くする必要が生じる。川底が上昇するたびに堤防の嵩上げを繰り返すと、川底にのみ土砂が残り、結果として川底が周囲の土地より高くなる現象がみられるようになる。

天井川は、その形成のメカニズムから国土地理院 HP では「人の営みがつくりだした地形」と説明されている。天井川は全国に 240 以上を数え、うち半数が近畿地方に集中している。天井川はその特性上、決壊した際に大量の水が周囲の土地に流れこみ、洪水を発生させる可能性があるなど危険性も高いことから通常の河川への改修工事が進んでいる。

山城地域の天井川

関西の有名な天井川といえば、JR 東海道本線が河川の下を潜る芦屋川や住吉川であろう。または、地理の授業内でとりあげられることの多い草津川（現在は付け替えにより天井川部分は跡地である）などを思い浮かべる人もいるかもしれない。

関西で最も天井川が多いのは滋賀県であるが、京都府の南部に位置する山城地域にも多くの天井川が存在する。日本有数の天井川集積地帯である山城地域は、木津川市（旧山城町地域）、井手町、城陽市、宇治市、木津川を挟んで京田辺市、精華町にそれぞれに天井川がある。急峻な山間部から流れ出た土砂が扇状地を形成する地域かつ、花崗岩が土壌のベースになっているほか、古くから都に木材を搬出し続けた影響で山林が禿山となり、土砂が流出しやすい環境になっていたことなどから、多くの天井川が形成された経緯を持つ。

この地域の天井川は度々大水害を引き起こした歴史がある。近年では、2012 年 8 月に宇治川の支流である弥陀次郎川が決壊し、480 戸が浸水する被害が出た。こういった事例を受けて、京田辺市ではかつて 8 本あった天井川が改修工事により、3 本にまで減少している。残る 3 本のうちの防賀川も改修工事が進み、近畿日本鉄道京都線興戸駅や府道 22 号八幡木津線の上を超えていた水路橋は撤去されるなど、少しずつ通常の河川になりつつある。山城地域における天井川の多くが改修で消失することも近い未来に訪れるかもしれない。



←JR 学研都市線(片町線)の防賀川隧道。かつてはこのトンネルの上を河川が流れていたが、現在は河川付け替えでその役目を終えた。レンガ造りの見事なつくりであることがわかる。(京田辺市)

近畿日本鉄道京都線興戸駅を通過し、防賀川に差し掛かる京都行特急列車。写真左端の盛土部分の上部が旧防賀川、線路下のトンネルが付け替え工事後の防賀川である。大きな高低差が見取れる。現在も改修工事が進む。(京田辺市)→



土木遺産・地域のシンボルとしての天井川

水害との戦いの跡である天井川も、先述のように新たな水害を引き起こす要因にもなり得る。その意味では、今すぐに改修工事を行う必要がある。しかし、こういった天井川が地域に愛され、憩いの場となっている場合もある。また、天井川化の進行を食い止めるために行われた治水工事の跡や、天井川を貫く鉄道・道路トンネルなどが土木遺産や観光資源として残る例も見られる。

木津川市の不動川は、明治時代に治水事業の普及を目的として政府が招いたオランダ人工師ヨハネス・デ・レーケによって築かれた日本初の石積堰堤が 100 年以上経過した現在も残存する。現代に繋がる砂防技術がヨーロッパから伝来した記念すべき地であることから、京都府によって砂防歴史公園として整備され、一帯は 2022 年に日本土木学会が認定する選奨土木遺産にも選ばれている。井手町の玉川は「井手の玉川」として広く知られ、小野小町や後鳥羽天皇らの詩にも詠まれていることなどから歴史的・文化的価値が非常に高い。平成の名水百選にも選定されており、山吹と桜の名所として、見頃の時期には多くの人で賑わう。明治時代からゴミ拾いなどの美化活動が盛んであり、今日まで地域住民に愛されている。また、京田辺駅からほど近い場所にある馬坂川跨線水路橋は見事なレンガ造りの三連アーチ橋で JR 学研都市線(片町線)を跨いでいる。こちらは現在も現役の河川だ。地域住民からは「ミツマンボ」と呼ばれ、京田辺市観光協会の HP にも掲載されるなど観光資源としても認知されていることがわかる。

こうした事例からは、天井川が地域住民から愛され、その地域のシンボルとなっていることがわかる。不動川や馬坂川のように、天井川であるゆえに誕生した構造物が愛されている場合と、玉川のように、長い歴史の中で河川自体が愛されている場合の 2 パターンが見取れる。どちらにせよ、その地域にとっては欠かせない資産となっているようだ。



←京都府によって整備された不動川砂防歴史公園。山中に位置し、アクセスは良くないが、美しく整備されている。2022 年に選奨土木遺産に選ばれている。大小さまざまな堰堤が見られるほか、キャンプなどにも利用可能。(木津川市)

JR 学研都市線(片町線)の馬坂川跨線水路橋を潜る同志社前行快速列車。防賀川と違い、現役である。水路橋の左右は雑草に覆われており、わかりづらいが、三連アーチ橋である。地元では「ミツマンボ」の愛称で親しまれている。(京田辺市)→



さいごに

天井川は、ある意味では負の遺産でもある。水害を防ぐための堤防が結果的に被害を拡大させる可能性をはらんでおり、かつては大水害で多くの尊い命が犠牲になっている。しかし、天井川が存在は公園の整備や関連構造物の保全などに見られるように地域住民の憩いの場や観光資源として愛されてもいる。私自身、河川が道路や線路の上を流れるという光景を目の当たりにしたときに、その不思議さに心を奪われた者の一人である。河川の下を通る道路や鉄道のトンネルも含め、その不思議な光景は観光資源としても非常に価値があるだろう。また、天井川が教えてくれる様々な歴史がある。天井川は木材の搬出や水害の歴史とは切っても切り離せないものであり、その地域のある種ランドマーク的な位置づけでもある。これから先、さらに天井川は改修工事で消えていくだろう。それは、安心安全な日常を作るために致し方ない。しかし、ランドマークとして愛されてきたことは考慮されるべきではないだろうか。安全を確保しつつも保全に向けた整備がさらに進むことを願ってやまない。



←不動川を潜る府道 70 号上粕城陽線の不動川隧道。この地域の主要幹線である国道 24 号城陽井手木津川バイパスは橋で不動川を越えるが、こちらはトンネルで不動川の下を抜ける方式となっている。(木津川市)

参考文献

国土地理院「天井川」

(https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/kawa_2-1.html)

NHK NEWS WEB「危険な「天井川」全国に 240」 2014.9.16

(https://web.archive.org/web/20140916141145/http://www3.nhk.or.jp/news/web_tokushu/2014_0916.html)

京都新聞「忘れない 南山城水害 60 年 証言編(1) 井手町 大正池の決壊、玉川の氾濫濁流が町のみこんだ」 2013.4.8

(<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/29045>)

京都新聞「忘れない 南山城水害 60 年 備える編(1) 天井川 ハード面 整備に限界も」 2013.7.1

(<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/29065>)

京田辺市観光協会「ミツマンボ」

(<https://kankou-kyotanabe.jp/tourism/mitsumanbo/>)

京都府レッドデータブック 2015「不動川」

(<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/geo/db/sur0052.html>)

京都府レッドデータブック 2015「渋川」

(<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/geo/db/sur0051.html>)

木津川市「不動川砂防歴史公園」

(<https://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/8,28740,36,424,html>)

環境省選定 平成の名水百選「玉川」

(<https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/newmeisui/data/index.asp?info=65>)